

「未来の匠・育成事業」訪問啓発  
実施報告書

記入例

報告日 2026年11月27日  
(代表) 報告者 ◇◇◇◇

案件名 (職種)		2026-G-**-** (寝具製作)			学校名	△△市立△△小学校	
訪問啓発 (職業講話・製作実演・体験活動) 実績							
月	日	時間	受講者人数			指導者人数	特記事項 (必要に応じ記入)
			児童生徒	教員	保護者(参観)		
11	20	9:50 ~ 12:05	16	1		1	
訪問啓発 (職業講話・製作実演・体験活動) の概要							
<p>職業講話 ・導入: 睡眠の重要性 → 寝具の重要性 体験活動で使用する綿の種類や混綿工程</p> <p>体験活動 ・中綿の成型、袋への入れ込み、縫込みと仕上げ等の体験</p> <p>・短いパートに分けて、作業工程の説明 → 実演 → 体験 の流れを繰り返し、分かりやすく指示</p> <p>・体験活動の中で、折に触れ「寝具製作」の仕事の特徴を的確に説明</p> <p>質疑応答とまとめ</p> <p>・全員、完成した座布団に座って、質疑応答とまとめ</p> <p>・質疑応答の後、まとめとして職業決定の心構えやものづくり産業の魅力</p>							
訪問啓発 (職業講話・製作実演・体験活動) の感想や教育活動に役立ったこと							
<p>・人生の1/3は睡眠時間であり、睡眠の重要性＝寝具の重要性という話がとても印象に残った。普段寝具について意識が向いていない子どもたちも、興味をもって話を聞いていた。</p> <p>・綿の扱いは思った以上に難しく、悪戦苦闘していたが、分かりやすい説明とサポートで、どの子も座布団を完成させることができ、達成感を味わうことができた。</p> <p>・見本で作られるものと自分の作ったものを比べ、その技術の高さに憧れをいただいていた。</p> <p>・質疑応答では、「職人を志した時に、うまくいかなかった時の逃げ道を断って臨んだ」という話から、並々ならぬ決意を感じた。これから進路選択をする際、また普段の学習等においても、「どのようになりたいか」という目標やそれに向かう強い意志など、「自分」の思いが重要であることを子どもたちは感じ取ったと思われる。</p>							
訪問啓発の実施風景 (写真等を4～5枚貼付け)							
							
<p>※ここに貼り付ける写真は、後日当事業のHPに掲載します。児童生徒の後ろ姿等、本人が特定できない写真、またはHP掲載の許諾が取れている児童生徒の写真にしてください。</p>							
教育職の視点で、本日の訪問啓発の改善点やお気づきの点							
<p>分かりやすく、また子どもたちの興味を引き付ける話で、最後まで集中して取り組むことができた。話のテンポや内容の選び方は、教員としても大変参考になった。また、針の数が1本でも足りなければ、布団に紛れ込んでいる可能性も視野に、見つかるまで次の作業は進めないことを強調。私たちも作業学習をさせるときに安全に作業することは伝えるが、そこまで厳格に行わなければ安全性を保てないと、自分の指導を見直すきっかけになった。要望としては、体験時間や準備の都合上難しいとは思いますが、普段の作業風景や作品等を見ることができれば、子どもたちはさらにものづくりに興味をもったと思う。</p>							
会場担当の先生向けアンケート (必ず1)・2)ともにお答えください)							
1) この訪問啓発で児童生徒にものづくりの魅力や意義が伝わったと思いますか(いずれか1つ)			2) 児童生徒に対するキャリア教育の視点で、この訪問啓発の価値や要望について、自由にお書きください。				
<p>(○)①大変よく伝わった</p> <p>( )②ある程度伝わった</p> <p>( )③あまり伝わらなかった</p> <p>( )④全く伝わらなかった</p>			<p>教職しか知らない教員が多い中、知識・経験・技能が豊富な専門家に来校いただいて、いろいろな職業について、講話と体験の両方を直接コンパクトに指導いただけるこの事業は、大変貴重で、より多くの学校で実施できるよう拡充を願いたい。今回の訪問啓発がきっかけになって、将来受講した職業に、しっかりした目標を持って入職する若者が一人でも多く生まれることを期待したい。また、昨今は教員の業務が多忙になっている中、当事業では学校側の負担について相当配慮いただいておりますが、学校としても児童のアンケートについてタブレットを活用するなど、教員の負担軽減にも務めたい。</p>				